

【別紙様式 3】

再評価実施事業調査書

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金事業		路線又は箇所名等		一般国道 409 号 富里拡幅		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成 11 年度	用地着手年度	平成 11 年度	工事着手年度	平成 11 年度	工事終了(認可)年度	平成 34 年度	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	3.2 (6.5)	総費用	88 億円 (11 億円)	総便益	282 億円 (70 億円)	基準年	平成 27 年度	供用開始年度	平成 35 年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

一般国道 409 号富里拡幅は、高速道路や鉄道によって分断されている成田市と富里市の市街地を結ぶ主要幹線道路である。現道は、渋滞が発生していることや歩道も狭小なことから、交通の円滑化、安全性の向上、物流の効率化等を目的として整備を行う。

【事業の進捗状況】(H27 年度末見込み)

	全体計画	投資事業費	残事業費	進捗率
事業費(億円)	73.0	59.4	13.6	81.4%
うち用地補償費	54.1	48.5	5.6	89.6%
うち工事費	18.9	10.9	8.0	57.7%

【社会経済情勢等】

- ・「一般国道 409 号富里拡幅」は、高速道路や鉄道で分断された成田市街と富里市街を結ぶ地域内の主要幹線道路であるとともに、主に広域交通が利用する富里 IC へのアクセス道路としての役割を担う。
- ・平成 24 年度に起点側の約 1.3km が暫定供用しており、沿線の土地区画整理事業と連携した都市基盤整備による良好な市街地形成の一翼を担っている。
- ・未整備区間では、朝夕を中心に渋滞が発生しており、渋滞を一要とする追突事故が多発している。
- ・また、周辺の製造業等の増加や物流施設の新規立地等により物流交通の需要が高まっている。
- ・当該区間は、緊急輸送道路一次路線に指定されていることに加え、三次医療施設である成田赤十字病院への救急搬送ルートとなっており、重要な路線である。
- ・用地取得にあたり、地権者の理解と協力を得るのに時間を要しており、事業期間が長期化しているが、起点側の暫定供用により、所要時間の短縮効果や交通事故の減少効果が発現しており、コスト縮減等と合わせ残る区間についても早期に事業効果が図れるよう努めている。

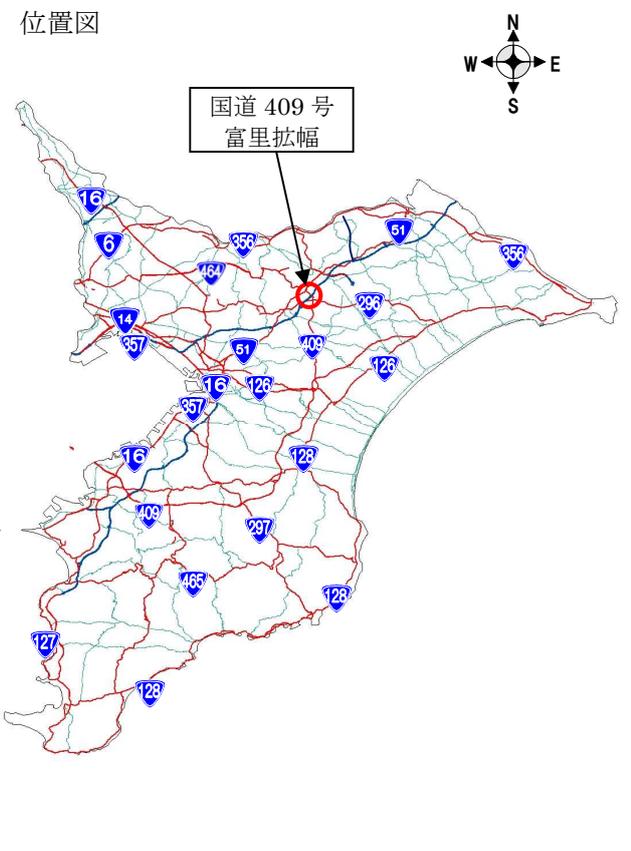
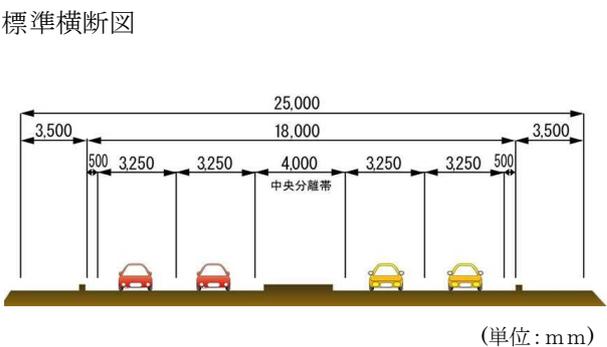
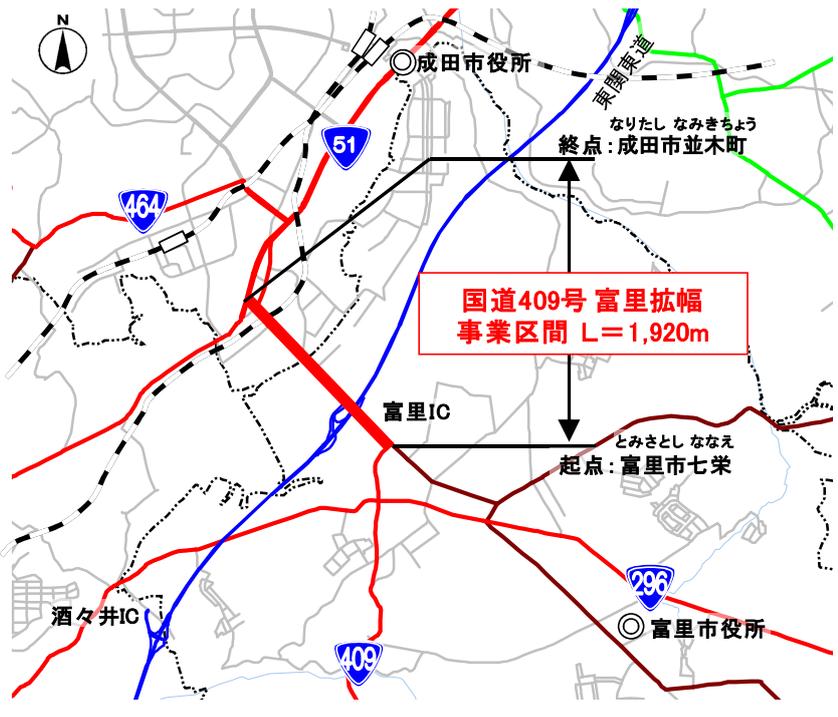
【対応方針(案)】

国道 409 号富里拡幅は、全体事業の費用便益(B/C)が 3.2(残事業 6.5)であり、事業の投資効果が見込まれる。

整備効果として、交通の円滑化、安全性の向上、物流の効率化、救急医療への支援が期待されることから、事業を継続し、効果の早期発現を目指す。

【別紙様式 4】

事業概要図

番号	1	事業名	社会資本整備 総合交付金	路線又は箇所名等	一般国道409号 富里拡幅
<p>位置図</p>  <p>国道409号 富里拡幅</p>	<p>標準横断面図</p>  <p>(単位: mm)</p>				
<p>平面図</p>  <p>成田市役所</p> <p>成田市並木町</p> <p>富里IC</p> <p>富里市七栄</p> <p>富里市役所</p> <p>国道409号 富里拡幅 事業区間 L=1,920m</p>					

【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	社会資本整備 総合交付金事業	路線又は箇所名等	一般国道409号 富里拡幅
事業化年度	平成11年度	用地着手年度	平成11年度	工事着手年度	平成11年度

【再評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始年度	平成26年度	対応方針	継続
B/C	2.1	総費用	79億円	総便益	159億円

再評価時の委員会の意見及び当時の状況
継続することが妥当である。

再評価時の進捗状況及び再評価時想定の5年後の進捗状況

	計 画	進捗状況(H20)	5年後の想定進捗状況
全体事業費	73.0億円	51.1億円(70%)	70.4億円(96%)
用地取得面積	16,459㎡	13,058㎡(79%)	16,459㎡(100%)
供用面積(延長)	1.9km	—	1.9km

【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成27年度	供用開始年度	平成35年度	対応方針	継続
B/C	3.2	総費用	88億円	総便益	282億円

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H27末見込み)
全体事業費	73.0億円	59.4億円(81%)
用地取得面積	24,472㎡	16,657㎡(68%)
供用面積(延長)	1.9km	1.3km

再評価後の
経過
及び
処理状況

起点側の1,270mは、平成24年度に暫定供用している。
残る区間については、早期供用を目標に整備を進めることとし、起点側の歩道未整備箇所についても、計画的に用地買収を進め、事業推進を図ることとする。